

2組目のホーム開幕で明暗

GM杯 Season5の第2節が5月26日のCool&Heat前枠で行われた。第1節ビジターであった3チームのホーム初戦節であったが、ドラゴノーズ(Dr)がパシフィックライジング(PR)を3タテ、ソーサリアンズ(Ys)がディープワンズ(CD)に勝ち越した[2勝1敗]のに対し、ブルムストーンズ(BS)はローテンヘムデン(RH)に負け越す[1勝2敗]という、明暗がくっきり別れた結果となった。[チーム投打成績、および個人の投打成績上位者→4ページ]



第03号(2013年06月)

チーム	試合	勝	敗	分	率	差
Dr	6	4	2	0	.667	-
RH	6	4	2	0	.667	-
Ys	6	3	3	0	.500	1.0
CD	6	3	3	0	.500	1.0
PR	6	2	4	0	.333	2.0
BS	6	2	4	0	.333	2.0

※レギュラーシーズン30試合の上位2チームと勝率5割以上チームがポストシーズン進出
★タイブレーカー規定により、直接対決のあったYs-CDはYs勝ち越しで上位、PR-BSはPR勝ち越しで上位

ソーサリー 左打者を封じる下柳の魔術

「あ」のシュートは左打者には打てないはずなんだよ」勝ち投手の下柳はインタビューに握りを見せながらそう語った。彼は得意の「のらりくらり」投球でディープワンズ打線のバットに魔法をかけたかのように内ゴロ・凡フライを量産し、7回まで1安打、特に左のクリーンナップ：ブラゼル・坂口は無安打に押さえ込んだ。(注1) 8回に右の田口に適時二塁打を打たれて完封を逃したが、守護神・岩瀬に十分な状態で引渡しを完了させた。「パスボール絡みで先制点を取ってくれたおかげで、ピッチングが窮屈にならなかったよ」と苦笑い……基本打席に立たない先発ピッチャーでは、味方打線が目覚める魔法がかけられないようだ。(注2)

1回戦 @横浜スタジアム

CD	0	0	0	0	0	0	0	1	0				1
Ys	0	1	0	0	0	0	1	0	X				2

勝 下柳 1勝 S 岩瀬 1S
負 永井 1敗
HR なし
盗塁 新井貴 1盗塁(通算1)

(注1)The Big 野球では、かなりの数の投手に「相手打者の打席によって投球ナンバーが変わる」というものが用意されています。特に「3/1=左打者は打っても詰まるが、右打者にはホームランボール」といった極端な結果のものは、投球ダイスの比較的小さい数字の部分に集中しておかれます。ディープワンズが左打者5人をラインナップしたこの試合、farlanx監督は下柳の投球で、その3/1が設定されているd20の3を振って窮地を脱し続けたのです。

(注2)このカードの3連戦、3面にもあるとおりスコアは引き締まっていますが、裏には「両者とも打撃に苦勞している」姿が見えます。ディープワンズは第2節終了時のチーム打率が4位タイ2チームから3ポイント以上離れた最下位、ソーサリアンズは第3戦の5回まで、開幕4イニング連続ホームランなしの決定力不足状態。お互い投手力は揃っているだけに、何らかの打開策は欲しいところ……

カンチャン 守備の隙間 (注3) を攻撃しまくるドラ野球

個人守備エリアの継ぎ目にできそうな綻びを突く——サッカーやアメリカンフットボールではゾーンディフェンス対策の基本となっている……それを野球に適用したらどうなるか？その回答がこの試合だ。

ドラゴノーズ・スカウトがパシフィックライジングの守備の大きな継ぎ目とぐっち監督や選手に伝えたのは左中間と三左間——つまり中田の守備エリアのギリギリ。4回に四死球・野選で満塁にした2点ビハインドで打席に立った原は、ドンピシャのバットコントロールで中堅・陽もカバーできない指示のエリアに打ち込んで走者一掃三塁打で逆転、8回も伊志嶺・中島が同じ継ぎ目に打球を落として追加点を挙げ、3タテを決めた。(注4)

3回戦 @神戸はつとむとフィールド

PR	0	0	1	1	0	0	2	0	0					4
Dr	0	0	0	4	1	0	0	3	X					8

勝 山田 1勝 H 古川 1勝 1H・香月 1H
負 大竹 1敗
HR 島山 1号
盗塁 糸井 1盗塁 (通算1)
中村剛 1盗塁 (通算1) 岡田 1盗塁 (通算2)

(注3) ぐっち監督(とうかがぐっち君)がゲームパーソングループのイベントおよび友好クラブに参加するようになって、初めて有名になったのは、麻雀でカンチャン待ちをツモあがりしまくって「カンチャン王子」の異名がついた事だったと記憶しています。今では愚形はもちろん、好形も平気でツモあがり、その恐怖度は上がったと言えます。(え?もっとひどいツモあがりする奴がいる?誰それ?)
(注4) この3連戦、寿監督はとことん守備レンジチェックに泣かれました。なんと守備レンジチェックでのアウトが0、記事で名前があがった中田(守備レンジ2、アウト確率35%)のみならず、名手宮本(守備レンジ5、80%がアウト)までも守備の逆を突かれてヒットを許しているのです。3回戦終了後「俺、ぐっち君とは相性よくねえんだよなあ……」と寿監督はこぼしていましたが、Season4では3勝3敗なんで、気のせいレベルかと。

稲葉は神宮でもよく輝く

ホーム2連敗を含む3連敗中のブルムストーンズ、ホーム3タテをくろうのか……ファンのみならず、ベンチにも流れ出したイヤな空気を払拭したのが、この神宮で野球キャリアの半分(注5)を過ごした4番・稲葉篤紀だった。一死1・3塁で回った第一打席に中前適時打を打つと、3回にも右前適時打、6回には打者一巡を締めくくるライトスタンドへのグランドスラムと、3安打1本塁打7打点の大活躍、打点リーダー[12打点]浮上のおまけ付きで、稲葉ジャンプ(注6)を繰り返すファンに応えた。「木佐貴君も頑張ってくれている(注7)のに、チャンスで打てなかったらずんだもち監督に顔向けできなかった」と語った。

3回戦 @明治神宮球場

RH	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
BS	1	0	1	0	0	6	0	1	X					9

勝 木佐貴 1勝
負 山井 1敗
HR 稲葉 2号
盗塁 石川 1盗塁 (通算1)

(注5) 史実では法政大(4年間)→ヤクルト(10年間)とキャリアを紡いだ稲葉にとって、神宮球場は野球人生を語る上で欠かせない球場でしょう。

(注6) 神宮では周辺配慮のため、ナイターでは「稲葉ジャンプ」は自粛事項となっていたようです(2012年まで太鼓類を使った応援はデーゲームでのみ可能、稲葉ジャンプもこれに類する応援とみなせばナイターでは不可)。この試合の翌日は移動日のため、日曜日のデーゲームという設定にしています。

(注7) もうひとり、この試合で活躍した選手として、木佐貴がいます。三者凡退で終わったインニングがないものの、2回以降は要所を三振でしので、終わってみれば10奪三振の完封勝利。この数字でドクターKダービーの首位に躍り出ました。史実でも2013年から稲葉とチームメイトとなった彼は、6月7日現在4勝と、日本ハムをギリギリ逆襲が望める位置に踏みとどまらせる活躍です。

★その他の試合 (6 試合) ★

Ys vs CD @ 横浜スタジアム

2 回戦

CD	0	1	0	0	0	0	3	0	0				4
Ys	0	0	0	0	0	1	0	0	0				1

勝 長谷部 1勝 H 宮西 1H S 武田久 1S
 負 岩田 1敗
 HR 新井貴 1号
 盗塁 鈴木尚 1盗塁 (通算2)

新井の先制ソロに対し、6回ラミレスの右適時打で追いつかれるが、7回に死球と内野安打2本で勝ち越し、ブラゼルが2点適時打で追い打ち。そのリードを宮西→武田久の「勝利の深き方程式」で守りきった。

3 回戦

CD	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			1
Ys	0	0	0	0	0	2	0	0	X				2

勝 スタンリッジ 1勝 H 小林 1H
 S 浅尾 1S
 負 井坂 1敗
 HR 小久保 1号

盗塁 鈴木尚 1盗塁 (通算3)
 スタンリッジと伊坂の投げ合いは、6回小久保の「チーム1号」で先制、8回の2連続二塁打で1点は返されるものの、最終回のクローザ・浅尾の熱投と長野の「執念の補殺」で坂口の生還を封じて逃げ切った。

Dr vs PR @ 神戸ほっともってフィールド

1 回戦 ※延長 11 回

PR	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
Dr	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1x		4

勝 岸田 1勝
 負 川越 1敗
 HR フェルナンデス 1号 中田 2号
 盗塁 なし

3回中田の3ランで先制するも、フェルナンデスのソロや中島の適時打2本で7回に追いつき、延長突入。11回の代打角中の適時打で、ドラゴノーズにとっては3連続となった延長戦を制した。

2 回戦

PR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
Dr	0	0	0	0	0	1	0	2	x				3

勝 岩崎 1勝
 負 篠田 1敗
 HR フェルナンデス 2号 中村剛 2号
 盗塁 なし

6回に好投を続けていた篠田のわずか一球の失投をフェルナンデスが見逃さず左翼へ叩き込み、8回中村が交代直後の中郷の初球を左翼へ入れてダメ押し。パシフィックライジングは3度の重殺で好機を潰した。

BS vs RH @ 明治神宮球場

1 回戦

RH	0	1	1	0	4	1	0	0	0				7
BS	0	0	0	0	0	0	2	0	0				2

勝 ネルソン 1勝
 負 中山 1敗
 HR 筒香 2号 長谷川 1号
 盗塁 青木 1盗塁 (通算2) 田中賢 1盗塁 (通算1)

ローテンヘムデンのブリッツルビー打線が初回から中山に襲いかかり、村田・阿部の適時打、5回の筒香の右満塁弾で勝負は決した。プリムストーンズは田中の盗塁をきっかけに点数を返すのが精一杯だった。

2 回戦

RH	0	0	0	0	0	0	1	1	0				2
BS	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0

勝 川井 1勝 S 藤川 1S
 負 西 1敗
 HR なし
 盗塁 なし

川井と西の好投合戦は、7回に内川の遊内安→代走の城所が藤田の適時打で生還、その城所が8回右適時打で追加点を上げる活躍を見せる。最後は藤川との完封リレーでローテンヘムデンは3連勝を決めた。

●チーム打撃成績●

	打率	HR	盗塁
Dr	.294	5	3
RH	.281	5	2
PR	.279	4	1
Ys	.255	1	6
BS	.255	4	3
CD	.228	2	1

●チーム投手成績●

	防御率	奪三振
CD	1.93	31
Ys	2.85	34
Dr	2.91	35
BS	3.44	37
RH	3.50	38
PR	5.06	36

●打者個人成績ランキング●

★★打率ベスト10★★(規定打席[18.6]以上)

	打率	打数	安打	
糸井嘉男	PR	.455	22	10
宮本慎也	PR	.435	23	10
ラミレス	Ys	.429	21	9
バレンティン	BS	.409	22	9
青木宣親	BS	.385	26	10
中島裕之	Dr	.375	24	9
平野恵一	CD	.368	19	7
相川亮二	Ys	.368	19	7
石川雄洋	RH	.350	20	7
中村剛也	Dr	.348	23	8
長野久義	Ys	.348	23	8

●投手個人成績ランキング●

★★防御率ベスト10★★(規定投球回数[6]以上)

	防御率	投球回数	自責点	
吉見一起	RH	0.00	9回0/3	0
岩崎翔	Dr	0.00	9回0/3	0
木佐貫洋	BS	0.00	9回0/3	0
川井雄太	RH	0.00	8回1/3	0
能見篤史	Ys	1.00	9回0/3	1
下柳剛	Ys	1.13	8回0/3	1
スタンリッジ	Ys	1.17	7回2/3	1
長谷川康平	CD	1.29	7回0/3	1
西勇輝	BS	1.42	6回1/3	1
永井怜	CD	1.50	6回0/3	1

★★勝利数ベスト5★★

	勝利
18投手	1

★★本塁打ベスト5★★

	本塁打	
中村剛也	Dr	2
フェルナンデス	Dr	2
筒香嘉智	RH	2
中田翔	PR	2
稲葉篤紀	BS	2

★★ホールド記録者(4名)★★

	ホールド	
宮西尚生	CD	1
古川秀一	Dr	1
香月良太	Dr	1
小林正人	Ys	1

★★打点ベスト5★★

	打点	
稲葉篤紀	BS	12
中田翔	PR	8
中村剛也	Dr	5
筒香嘉智	RH	5
ブラゼル	CD	5

★★セーブ数ベスト5★★

	セーブ
6投手	1

★★盗塁ベスト5★★

	盗塁	
鈴木尚広	Ys	3
青木宣親	BS	2
岡田幸文	Dr	2
9選手		1

★★奪三振ベスト5★★

	奪三振	
木佐貫洋	BS	10
能見篤史	Ys	9
ネルソン	RH	7
中山慎也	BS	7
和田毅	Dr	7